

事例11 ICT端末を活用し、様々な価値観を視覚化して多面的・多角的に考える事例

- 学年 第3学年
- 主な領域 A 節度、節制
- 事例のポイント

- ①AIテキストマイニングを使用し、生徒の関心を高める。
- ②授業支援ソフトを使用し、グループで話し合いをしながら、自身の考えを深める。

ICTを活用した主な学習場面 展開（話し合い）

ICT活用の利点

- ①ICT端末の活用によりワークシート等への記述や発言が苦手な生徒の支援になる。
- ②ICT端末に入力することで、教師は生徒の学習状況が把握しやすくなる。
- ③意見交換が容易になることで、多様な意見から多面的・多角的に考えを深めることができる。

1 主題名 望ましい生活習慣 内容項目 A 節度、節制

2 ねらい 主人公「私」の気づきや考えを知ると共に、自分の生活を振り返ることを通して、節度を守り節制に心がけることは、気力と活力に満ち溢れた充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることに気づき、望ましい生活習慣を身に付けるための実践意欲を高める。

教材名 独りを慎む（出典：「明日への扉3」Gakken）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本指導内容は、節度を意識し、守り、自己を統制する節制に心掛け、望ましい生活習慣を身に付けると共に、安全や危機管理に配慮し、心身の調和のある生活を送ることは、心身の健康を増進し、充実した人生を送る上で欠くことのできないものである。

ここでは、心身の健康を損なわないように、節度を意識し、その節度を超えないように欲望などを抑え、自己を統制する節制に心掛けることが望ましい生活習慣につながり、気力と活気に満ちた充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚できるようにする。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

生徒はこれまで、1・2年生の道徳の授業において、自己の生活を振り返りながら望ましい生活を送るために大切にしたいことを考えてきた。また、学級活動等で「落ち着いた学校生活」の過ごし方や「自分ひとりの時間の過ごし方」「自身をコントロールする力」について学んでいる。

学年が上がるにつれて、心身共に著しい発達を見せ、活気にあふれ、意欲的に活動できるようになるが、衝動にかられた行動に陥ることがあったり、これまで身に付けてきた基本的生活習慣に対して、外面的に反発や抵抗を示すこともあったりする。

さらに、軽はずみな行動によって健康を損なってしまったり、時間や物の価値を軽視してその活用を誤ったり、基本的生活習慣や防災訓練、交通安全等の安全に関わる活動に対してためらったり、軽視したりすることもある。

そこで、行動の仕方や物事の処理の問題として捉えさせるだけでなく、望ましい生活習慣を身に付けることが、充実した人生を送る上で欠かせないことを自覚できるようにすることが大切である。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、「私」が一人暮らしを始めて束縛されない生活を送るうち、徐々に自堕落になっていく自分に気付くという内容を通して、ねらいに迫るものである。

一人暮らしを始めた「私」は、自分の行儀が悪くなったことに危機意識をもち、それが精神の問題だと気付いて、「独りを慎む」という言葉を自分に言い聞かせるようになる。

自分自身のために、自分の生き方として、節度を守り節制を心掛けた生活を送ることを大切にしていかなければならないという「私」の気付きは、生徒にも理解しやすく、生徒が自分の生活習慣を振り返るとともに、自分の生き方を考えることのできる教材である。

そこで、本時では以下の発問をし、ねらいに迫りたい。

①「なぜ、してはいけないことをやってしまうのだろう。」

ここでは、人間理解を深めさせたい。人の弱い部分を考えさせながら、生徒自身が振り返る時間にする。また、補助発問「度が過ぎてしまうと、どうなるだろう」「そのまま時間が経過していくと、どうなるだろう」と問うことで、多面的・多角的な視点になり、想像を膨らませながら、危機感をもたせ、今後の自身の在り方について考えを深めさせる。

②「自分の部屋の整理整頓具合はどこまでなら気になりませんか。」

個別で考えた後、グループワークを行う。その中で、人それぞれの価値観を知るとともに、節度を保ち、節制することでよりよい生活になることに気付かせる。また、ここでも上記①と同様の補助発問をする。対話的な活動を通して道徳的価値の理解を深める。

③「独りを慎む」の言葉が心に沁みたのはなぜか。

ここまでの発問で、「私」と共感させるとともに、自身を振り返りながら価値理解を深めてきた。そこで、「私」の心情を深く考えさせながら、ねらいに近づけていく。

④「節度を保ち、節制した生活を送るために大切なことはなんだろう。」

これまでの話合いの中で気付いたことを、今後の生活に生かそうとする実践意欲を高めながら、本時のねらいに迫る。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 アンケート結果「一人暮らしのイメージ」について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜんぶ自由にできる。 ・気が楽。 ・ストレスがない。 ・お金がかかりそう。 ・家事がちゃんとできるか心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい点だけでなく、心配な点についても考えさせる。 ・一人暮らしはすべてが自由であり、自己責任の中での生活となる。そこで、自由ではあるが、それだけではないことに気付かせた上で教材に入りたい。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ICT活用の利点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートはフォームを使用 ・アンケート結果は「AI テキストマイニング」を使用 集約、結果提示が容易であり、生徒の考えがわかりやすく伝わる。 </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アンケート結果から、同じような意味をもつ言葉が多いほど大きく表示される。</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント①</p> </div>	

<p>展開</p>	<p>2 教材の登場人物や条件・状況について知る。</p> <p>3 教材「独りを慎む」の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <p>(1) なぜ、してはいけないことをやってしまうのだろう。</p> <p>(補助発問) 「私」の行いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・度が過ぎてしまうと、どんな生活になるだろう。 ・時間が経過していくと、どうなるだろう。 <p>(2) 自分の部屋の整理整頓具合はどこまでなら気になりますか。</p>	<p>〈登場人物〉 主人公「私」 〈条件・状況〉 ・私は一人暮らしを始めた。 ・自由を満喫し、家族の視線がなくなり、タガが緩んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰も見ていないから。 ・自分に甘いから。 ・そのときは気にしていないから。 ・このくらいよいだろうと思ってしまう。 ・食事のマナーが悪くなりそう。 ・体調を崩しそう。 ・生活リズムが乱れそう。 ・足の踏み場があればいい。 ・常に整理されていないと気になる。 ・机の上はきれいな状態。 ・ゴミじゃなければ気にならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた後、全体で共有しながら、人間の弱い部分を考えることで人間理解を深めさせる。 <p>☆時間の経過や度が過ぎた行動を想像することで多面的・多角的な視点で深く考えている。(発言)</p> <p>【考察(1)①参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人カードに入力させながら、グループで意見交換をし、それぞれの価値観に触れさせる。 <p>【考察(1)②参照】</p>
<p>ICT活用の利点①③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業支援ソフト」を使用 <p>グループで画面を共有しながら、自身の考えを入力していく。 入力されたものをもとに話し合う。</p> <p style="text-align: right;">事例のポイント②</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div data-bbox="207 1568 925 2038" style="width: 45%;"> <p>きっちり派</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">机の上はきれいな状態。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">足の踏み場があればいい。</div> <p>ゆったり派</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">常に整理されていないと気になる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ゴミじゃなければ気にならない。</div> </div> <div data-bbox="925 1568 1436 2038" style="width: 45%;"> <p>【ICT端末の活用】【生徒画面】</p> <p>「授業支援ソフト（ロイロノート）」を使用し、4人グループで一つの画面を共有する。はじめに、個人カードに自分の考えを入力する。次に、気になったカードについて意見交換をする。その後、話し合いながらピラミッド型の思考ツールを用いてきっちり派とゆったり派に分ける。これにより、その後の話し合いがより具体的なものになる。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">事例のポイント①・②・③</p>			

グループ活動で協議した後、全体で話し合う。

生徒への問い返しの例

T：(足の踏み場があればいい人に対して)それにより、何かいいことはありますか。
C1：いいことと聞かれると・・・
T：その状況が続いて、困ったことはありませんでしたか。
C2：ゴミが出てきたり、探し物が見つからなかったりしたことはありました。
T：その状況をどう思いましたか。
C3：ちゃんと片付けておけばよかった。
T：もし、片づけるきっかけがあるとしたら、どんなときですか。
C4：親に注意されたときが一番多い気がします。
T：(常に整理されている人に対して)それにより、何かいいことはありますか。
C5：その時必要なものがすぐに見つかる。
C6：自分の部屋に入ると気持ちが落ち着く。やりたいことがすぐにできる。
T：なるほど、でも、もしかしたら、一人暮らしを始めると「私」と同じ状況になってしまうことはないかな・・・
「私」は一人暮らしを始めてタガがゆるんでしまったんだよね・・・。
C7：・・・
T：私は、「独りを慎む」という言葉が心に沁みたって言っているけど、これってどういうことなんだろう。

(3) 「独りを慎む」の言葉が心に沁みたのはなぜか。

- ・自分のタガがゆるんでしまい、転がりかけた石のように自堕落になっていることに気付いたから。
- ・親が注意していたことの意味は生活習慣を整えるためであることに気付いたから。
- ・一人暮らしは自由でいいが、その心地よさを味わってしまうと、自分自身が楽な方へとどんどん傾いていってしまうのではないかと気付いた。
- ・自分で抑制できなくなるのではないか。

(4) 節度を保ち、節制した生活を送るために大切なことはなんだろう。

- ・その先を想像して、踏みとどまる。
- ・誰が見ても恥ずかしくないようにする。
- ・親に注意される前に気付けるようにする。また、注意されたことは素直に受け入れる。

- ・これまでの話合いで気付いたことをもとに、グループで話合いながら考えさせる。
(タブレット)
- ・各班から出された言葉をもとにねらいについて深く考えさせる。
- ・自分の生活を振り返り、節度を保ち、節制することがよりよい生活になることに気付かせる。

終末	4 これまでの自分を振り返り、学んだことや気付いたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったり派寄りだったので、もう少しきっちりした生活になるように節度を保ちたい。 ・自分自身をコントロールすることを知り、生活を改めて考えることができた。 ・自堕落になるかどうかは、自分の行いを反省し改善しようとする強い精神力があるかどうかだと思う。 ・誰が見ても恥ずかしくないことを続けると人間性が豊かになる。 	☆他者との価値観の相違から、節度を守り節制することの大切さに気付き、今後の望ましい生活習慣を送ることについて考えを深めている。(ワークシート)
----	---------------------------------	---	---

板書

「独りを慎む」
テーマ：節度・節制

アンケート結果
「一人暮らしのイメージ」
※電子黒板に表示

「私」の行い

時間が経過すると...

- ・生活リズムが崩れるかもしれない。
- ・体調不良になるかもしれない。

度が過ぎると...

- ・人前でもしてしまうかもしれない。
- ・取り返しのつかない事になってしまうかもしれない。

「独りを慎む」の言葉が心に沁みた

- ・自分自身が楽な方へとどんどん傾いていってしまうのではないか
- ・このままだと抑制できなくなるのではないか
- ・自分自身をコントロールすることを知り、生活を改めて考えることができるのではないか

なぜ、してはいけないことをしてしまうのだろう

- ・誰も見ていないから
- ・自分に甘い
- ・このぐらい大丈夫だろう

自分の部屋の整理整頓具合どこまでなら気にならないだろう

節度を保ち、節制した生活を送るために大切なこと

7班	4班	1班	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗したことを思い出す。 ・誰が見ても恥ずかしくないようにする。
8班	5班	2班	
9班	6班	3班	

各班で話し合った中からキーワードを共有し、自己を見つめ直す。

5 他の教育活動との関連

事後指導	帰りの会で本時の学習を振り返る。
技術・家庭科	技術分野 情報モラル
保健体育科	保健分野 健康な生活と疫病の予防

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・時間の経過や度が過ぎた行動を想像することで多面的・多角的な視点で深く考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・他者との価値観の相違から、節度を守り節制することの大切さに気付き、今後の望ましい生活習慣を送ることについて考えを深めている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

本時では、主人公の「私」の自堕落な行いや生徒同士で出し合った節度の分類を考える際に、補助発問として「度が過ぎる」「時間の経過」の2点を問うことで、多面的・多角的に考えられるように授業を行った。まず、はじめに「私」の行いを例として取り上げ、自堕落

な部分を客観的に考えさせた。次に、ICT端末を活用し、生徒の考えを整理した。その中で、「ゆったり派」には「節度ない生活を続けていくとどのような変化が起きるのか」を問い返しながらかえさせた。これは、単純に「この生活はよくない」で終わらせるのではなく、その理由を明確にさせることを目的としている。その結果、生徒は次第に危機感をもつようになった。振り返りでは、「今より度が過ぎないように、先のことを考えて行動していきたい。」や「他の人の価値観を知って、今までよりもよくしていきたいと感じたので、いつでも節度が保てるように気を付けて生活していきたい。」といった記述が見られた。

②自分との関わりで考える学習について

発問(2)において、最初は場面を設定せずに考えさせた。その中で、様々な価値観が出たが、比較しづらいものになってしまい、話合いが滞ってしまった。そのため、場面を揃えるために、「自分の部屋の整理整頓具合」に限定して再度考えさせた。そこに補助発問「時間が経過するとどうなるだろう。」「度が過ぎていくとどうなるだろう。」を加えたことで、より自分ごととして考えを深めるきっかけになった。しかし、価値観を比較し、分類しただけでは、本時のねらいからずれてしまうため、発問(4)では、改めてねらいに立ち返る発問を行い、今後の生活と結びつけて考えられるようにした。

(2) 評価の視点について

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・時間の経過や度が過ぎた行動を想像することで多面的・多角的な視点で深く考えている。

グループでの話合いの様子やクラス全体での発言内容、ワークシートや振り返りを基に評価を行った。展開を通しての気づきや実践しようとする様子が多く見られた。特に、補助発問を投げかけた場面において、多面的・多角的な視点で考えながら話をしている様子が見られた。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・他者との価値観の相違から、節度を守り節制することの大切さに気づき、今後の望ましい生活習慣を送ることについて考えを深めている。

振り返りを記入するワークシートで評価を行った。本時の内容を振り返りながら、「節度を保つことで生活がよりよくなることがわかった。いつ誰が部屋にきても恥ずかしくないようにしていきたい。」「今までの節度だと、はずかしい部分もあったので、改善していきたい。」「今のうちから、注意される前に自分で気付いて、自堕落にならないようにしていきたい。」など、今後の生活に生かそうとする記述が見られた。